



北海道大学スラブ研究センターグローバル COE プログラム
「境界研究の拠点形成」第 8 期展示「知られざるクリル・カムチャッカ
～ロシアから見た境界のイメージ～」の開催について（お知らせ）

概要：

スラブ研究センターでは、北海道大学総合博物館内のグローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」（拠点リーダー：岩下明裕教授）の第 8 期展示企画として、1 月 25 日（金）から「知られざるクリル・カムチャッカ～ロシアから見た境界のイメージ～」展を同博物館 2 階グローバル COE プログラム展示ブースにおいて開催しています。（5 月 26 日（日）まで）

本展示では、近くて遠いクリル・カムチャッカについて、ソ連・ロシアの画家の目を通して描かれたこの地方の風景について紹介するとともに、雄大な自然が手つかずで残されているカムチャッカ半島の鉱物、エネルギー資源等についても紹介しています。また、1996 年ユネスコ世界自然遺産に登録されたことで、観光資源としても世界各国の関心を集めています。

◆グローバル COE プログラム土曜市民セミナー

1) 2 月 16 日（土） 13 時 30 分から 15 時 00 分

演題：「カムチャッカ・北千島の自然と人々」

講師：ビクトル・オクルーギン 氏（ロシア科学アカデミー極東支部地震火山研究所）

場所：総合博物館 1 階「知の交流コーナー」（通訳付き）

2) 4 月 20 日（土） 13 時 30 分から 15 時 00 分

演題：「境界のイメージ シコタン・グループの活動について」

講師：谷古宇 尚 氏（北海道大学大学院文学研究科）

場所：総合博物館 1 階「知の交流コーナー」

3) 5 月 18 日（土） 13 時 30 分から 15 時 00 分

演題：「近くて遠いクリル・カムチャッカ 地質と鉱物・エネルギー資源の現在と未来」

講師：松枝 大治 氏（北海道大学総合博物館）

場所：総合博物館 1 階「知の交流コーナー」

※北海道大学総合博物館：札幌市北区北 10 西 8（札幌駅北口より徒歩 10 分）

開館時間）5 月 31 日（金）までは、午前 10 時から午後 4 時となります。

お問い合わせ先

北海道大学スラブ研究センターグローバル COE 事務局 担当：岸田，山崎

TEL：011-706-2380 FAX：011-706-4952 E-mail：gcoe-jimu@slav.hokudai.ac.jp



グローバルCOEプログラム
境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界

「国後の岸辺で」
ナタリア・キリュヒナ



北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」第8期成果展示

Курилы и Камчатка

知られざるクリル・カムチャッカ

ロシアから見た境界のイメージ

Камчатка

2013.1.25(金)ー5.26(日)

*月曜休館(祝日の場合は翌日休館)
臨時休館日: 3.12(火)

会場 | 北海道大学総合博物館2階GCOE展示ブース

開館時間 | 10:00-16:00

入館料 | 無料

主催 | 北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」

共催 | 北海道大学大学院文学研究科芸術学講座、北海道大学スラブ研究センター、北海道大学総合博物館

協力 | ロシア美術家同盟サハリン支部、ロシア科学アカデミー極東支部火山地震研究所、財団法人 宇宙システム開発利用推進機構

後援 | 平成21~24年度科学研究費補助金 基盤研究(B)「辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究」



アクセス

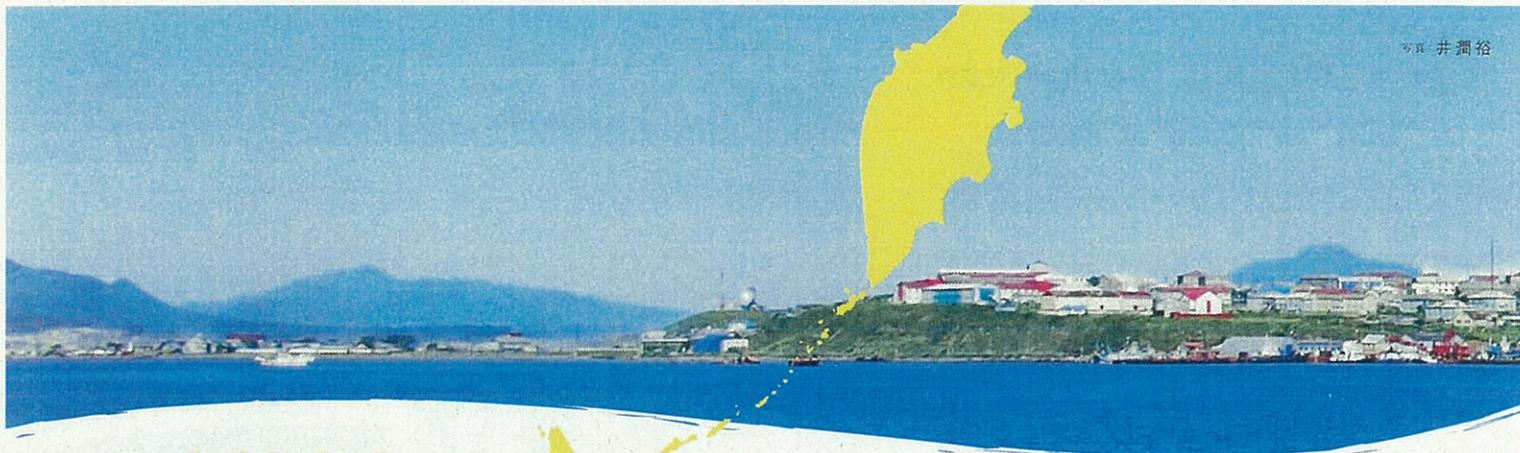


北海道大学総合博物館 〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
TEL: 011-706-2658 E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp
ホームページ: <http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

お問い合わせ先



北海道大学スラブ研究センター「境界研究の拠点形成」事務局
TEL: 011-706-2380, 4809 E-mail: gcoe-jimu@slav.hokudai.ac.jp
ホームページ: <http://www.borderstudies.jp/>



Exhibition

企画展示

知られざるクリル・カムチャッカ

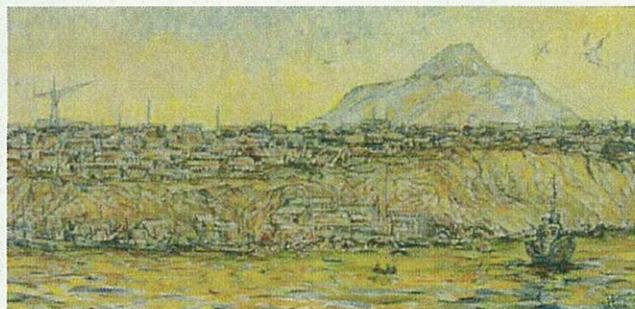
ロシアから見た境界のイメージ

北海道から見ると、鉄のカーテンに閉ざされた遠い向こうの世界だった千島列島やカムチャツカ半島は、ソ連やロシアの人々の目には、どのように映っていたのでしょうか。

国後島や色丹島は、1960年代半ばから、モスクワやウラジオストク、またサハリンの画家たちがしばしば訪れた土地でした。特徴的な姿を見せる火山と美しい入江、水産加工場やそこで働く労働者たちは、画家たちが好んで取り上げたモチーフです。境界は、膨大な数の絵画によって描き出され、ソ連・ロシアの新しい風景が作られていたのです。

一方、1996年にユネスコ世界自然遺産に登録されたカムチャツカ半島は、雄大な風景や多彩な動植物、温泉、火山、北方森林など“豊かで手つかずの自然”に恵まれ、科学者たちの格好の研究対象となってきました。この地はロシア極東に位置し、これまでほとんど見向きもされなかった場所ですが、鉱物・エネルギー資源や水産・林産資源を始め、観光資源にも恵まれていることから、最近になって急速に世界各国の関心を集めるようになりました。

この展示では、絵画や写真などを通じて“近くて遠い”クリル・カムチャツカをご紹介します。



ナタリア・キリューヒナ『黄金の豊漁の日々』



シコタン・グループのメンバー

Seminar

*道民カレッジ連携講座

関連セミナー

会場 | 北海道大学総合博物館1階「知の交流」コーナー
 時間 | 13:30～ 定員 | 60名 入場無料/申込不要

- | | | |
|---------|------------------------------------------------------------|------|
| 1.26(土) | 「旅する画家たち—ロシアと日本の境界の風景」
ナタリア・キリューヒナ (ロシア芸術家同盟 サハリン支部) | 通訳付き |
| 2.16(土) | 「カムチャッカ・北千島の自然と人々」
ビクトル・オクルーギン (ロシア科学アカデミー 極東支部地震火山研究所) | 通訳付き |
| 4.20(土) | 「境界のイメージ—シコタン・グループの活動について」
谷古宇尚 (北海道大学大学院文学研究科) | |
| 5.18(土) | 「近くて遠いクリル・カムチャッカ—地質と鉱物・エネルギー資源の現在と未来」
松枝大治 (北海道大学総合博物館) | |

Access

アクセスマップ

札幌市北区北10条西8丁目 (北海道大学キャンパス内)

札幌駅北口 > 徒歩約10分

北12条駅 > 徒歩約8分

